

**J**ournal  
of **E**ducation  
Inclusive

Printed 2016.0830  
ISSN 2189-9185

Published by Asian Society of Human Services



*August 2016*  
VOL. **1**

ORIGINAL ARTICLE

# ASD 児における他者/自己理解の程度が社会的相互作用に及ぼす影響

## The Influence of the Degree of Others/Self-understanding of the Social Interaction in Children with ASD

鈴木 徹<sup>1)</sup> (Toru SUZUKI), 平野 幹雄<sup>2)</sup> (Mikio HIRANO),  
野口 和人<sup>3)</sup> (Kazuhito NOGUCHI)

1) 秋田大学教育文化学部

(Faculty of Education and Human Studies, Akita University)

2) 東北文化学園大学医療福祉学部

(Faculty of Medical Science and Welfare, Tohoku Bunka Gakuen University)

3) 東北大学大学院教育学研究科

(Graduate School of Education, Tohoku University)

<Key-words>

自閉症スペクトラム障害, 社会的相互作用, 他者/自己理解

(Autistic Spectrum Disorder, social interaction, others/self-understanding)

suzukitoru@ed.akita-u.ac.jp (鈴木 徹)

Journal of Inclusive Education, 2016, 1:48-53. © 2016 Asian Society of Human Services

### ABSTRACT

鈴木・細川・野口 (2014) は、ASD 児の参与観察を通して、他者/自己理解の程度によって社会的相互作用の様子に質的変化が見られることを指摘した。本研究では、他者/自己理解の課題と社会的相互作用場面の様子との関連を検討することで、鈴木・細川・野口 (2014) の知見が他の ASD 児にも共通して確認されるのかを検証した。知的障害特別支援学校に通う児童生徒 8 名を対象に他者/自己理解に関する課題を実施するとともに、社会的相互作用場面の様子について教員 1 名を対象に聞き取りを行った。その結果、他者/自己理解の程度によって社会的相互作用場面の様子が異なることが明らかとなった。ただし、本研究の結果は鈴木・細川・野口 (2014) の知見を完全に支持するものではなく、今後、更なる検証の必要性が示唆された。

Received  
2016 / 8 / 3

Revised  
/ /

Accepted  
2016 / 8 / 6

Published  
2016 / 8 / 30

## I. はじめに

自閉症スペクトラム障害 (Autistic Spectrum Disorder; 以下、ASD と記す) の中核的な障害として、社会性の障害が挙げられる (Wing, 1996)。ASD 児の状態像は多様であり、社会的相互作用場面の問題の内容も様々である。そのため、多様なニーズに応えうる支援体制を整えていく必要がある。これまで ASD 児における社会的相互作用の問題については、他者理解および自己理解の困難という 2 つの要因が想定されてきた。

他者理解に関しては、心を読む力の弱さが指摘されてきた (Frith, 2008)。具体的には、他者の行為に含まれる意図や心的状態などを理解することが難しく、そのことが社会的相互作用において様々な問題を引き起こす要因になると考えられてきた。他者理解の代表的な課題である心の理論課題の成績の低さ (Baron-Cohen, Leslie, Frith, 1985) は、他者理解の困難を示す根拠の 1 つになっている。

自己理解に関しては、自己の行為が社会的相互作用に及ぼす影響に関する理解の困難が指摘されてきた。鈴木・平野・北ら (2013) は、心の理論課題において良好な成績を示す ASD 児の社会的相互作用場面を分析し、自己の行為を振り返ることや自己の行為とその結果の因果関係を理解することの困難といった自己理解の困難が認められ、それらが社会的相互作用の問題の契機となることを指摘した。その後の追研究によって、自己理解の困難は ASD 児に共通して確認されることが明らかとなった (鈴木・平野・野口ら, 2014)。

鈴木・細川・野口 (2014) は、学齢期の ASD 児の約 6 年に渡る参与観察記録を分析し、社会的相互作用の質的变化について、①他者への問題行動が目立つ時期、②他者への問題行動が減少し、良好な関係を築く兆候が見られる時期、③他者との関係不調を頻繁に訴える時期、の 3 つの時期に分けられることを示した。その上で、他者/自己理解の困難に起因する問題は全ての時期に共通して確認されたものの、①では他者理解の困難に起因する問題が顕著に現れ、②ではそれらの問題が改善し、③では自己理解の困難に起因する問題が顕著に現れることを指摘した。つまり、他者/自己理解の程度によって社会的相互作用の質的变化が起こることが予想される。

本研究では、他者/自己理解の程度によって社会的相互作用の質的な違いが生じるのかを他者/自己理解の課題成績と社会的相互作用場面の様子との関連から検討し、鈴木・細川・野口 (2014) の個別事例から得られた知見が他の ASD 児にも共通して確認されるのかを検証する。

## II. 方法

### 1. 対象者

A 市の知的障害特別支援学校中学部・高等部に通う ASD のある児童生徒 8 名 (男子 6 名、女子 2 名) を対象とした (表 1)。平均生活年齢 (CA) は 17 歳 3 か月であった。知的機能に関しては、レーヴン色彩マトリックス検査 (RCPM) を実施し、平均は 31.1 であった。なお、本研究を実施するにあたり、保護者に対して課題のねらいや手続きを書面で説明し同意を得た上で、本人に対しては課題の概要を口頭で説明し同意を得た。

表1 対象者のプロフィール

	ASD群 (n=8)
生活年齢 (CA)	17.3 (15.7-18.10)
レーヴン色彩マトリックス検査 (RCPM)	31.1 (20-36)
	mean (range)

## 2. 実施した課題

他者理解に関する課題と自己理解に関する課題の2つを実施した。以下、各課題の概要を記す。

### (1) 他者理解に関する課題

アニメーション版“心の理論課題”（藤野, 2005）における「ボールのもんだい（一次の誤信念課題）」を実施した。この問題では、3つの質問（事実質問、記憶質問、信念質問）を行った。

### (2) 自己理解に関する課題

鈴木・細川・野口（2014）の「すごろく課題」を実施した。この課題は、2名で行うすごろくで、対象者が特定のマスに止まることで勝敗が決まるよう（「ooが特定のマスに止まったから勝敗が決定した」という因果関係が成立する）に設定した。第一筆者と対象者で行い、対象者が勝つ場合（勝ち条件）と負ける場合（負け条件）の2条件を実施した。各条件において3つの質問（事実質問2題、結果理由質問1題）を行った。なお、結果理由質問では自由回答を求めた。

### (3) 各課題の分析について

課題実施場面は、ビデオカメラ及びICレコーダーで記録した。

他者理解に関する課題では、3つの質問（事実質問、記憶質問、信念質問）を正答・誤答の2値にて評定した。全ての質問に正答した場合のみ通過とし、それ以外は不通過とした。課題通過を他者理解高群、不通過を他者理解低群とした。

自己理解に関する課題では、事実質問2題を正答・誤答の2値にて評定した。結果理由質問については、①特定のマスに止まったことへの言及、②それ以外に分類し、①を因果関係理解あり、②を因果関係理解なしとした。なお、事実質問2題に正答し、なおかつ勝ち条件と負け条件のどちらも因果関係理解ありの場合に因果関係理解ありとし、それ以外は因果関係理解なしとした。因果関係理解ありを自己理解高群、因果関係理解なしを自己理解低群とした。

### 3. 社会的相互作用場面の聞き取り

課題実施後、社会的相互作用場面の様子について、日常的に生徒と関わっている教員1名を対象に聞き取りを行った。課題成績から、自己/他者理解の程度について4群に分け、それぞれの属性は伝えずに、各群の社会的相互作用場面の様子について、特に自己理解（自己の行為や自他の行為の因果関係に関する理解等）及び他者理解（他者の心的状態に関する理解等）に関連する問題を中心に、その頻度や内容等について尋ねた。

## III. 結果

### 1. 他者/自己理解の程度

#### (1) 他者理解の程度

他者理解高群は3名（RCPM28.7）であり、他者理解低群は5名（RCPM32.6）であった。

#### (2) 自己理解の程度

自己理解高群は2名（RCPM33.0）であり、自己理解低群は6名（RCPM30.5）であった。

#### (3) 他者/自己理解の程度（表2）

①群（自己理解高群・他者理解高群）は2名（RCPM33.0）であった。②群（自己理解低群・他者理解高群）は1名（RCPM20.0）であった。③群（自己理解高群・他者理解低群）は0名であった。④群（自己理解低群・他者理解低群）は5名（RCPM32.6）であった。

表2 対象者における他者/自己理解の程度

		自己理解	
		高群	低群
他者理解	高群	2	1
	低群	0	5

人

### 2. 社会的相互場面の様子

①群と②群に他者理解の問題は認められず、①群よりも②群に若干多く自己理解の問題が認められるとのことであった。具体的には、興奮したりすると一方的に攻撃的な言動を繰り返してしまったりすることがあるとのことであった。④群については、自己理解および他者理解のどちらの問題も認められ、他者の心的状態の理解に欠けた言動や自己の行為に関する理解の困難に起因した問題が他の群よりも目立つとのことであった。

## V. 考察

本研究では、他者/自己理解の程度によって社会的相互作用に質的な違いが生ずることを他者/自己理解に関する課題成績と社会的相互作用場面の様子との関連から検証した。以下、若干の考察を行う。

社会的相互作用場面の聞き取りでは、他者/自己理解に関する課題成績から対象者を4群に分け、それぞれの属性は伝えずに各群の社会的相互作用場面の様子について尋ねていた。結果として、各群で問題の頻度や様子に違いがあることが語られていた。具体的には、①群と②群よりも④群の方が社会的相互作用場面での問題が目立っていた。これらのことから、今回実施した2つの課題成績が社会的相互作用を捉える指標となり得ること、自己/他者理解の程度の違いによって社会的相互作用場面の様子が変わることが示唆されるだろう。

④群は他の群よりも社会的相互作用場面での問題が目立っていた。これは、鈴木・細川・野口(2014)の「他者理解の問題が顕著に現れる段階」に相当するものと思われる。自己/他者理解ともに低い場合、社会的相互作用においては他者理解の問題が顕著に現れると言えるだろう。また、③群がいなかったことは鈴木・細川・野口(2014)の知見を支持する結果となったと言えよう。

本研究の結果を鈴木・細川・野口(2014)の知見に照らし合わせると、②群は「他者理解の問題が改善する段階」、①群は「自己理解の問題が顕著に現れる段階」に相当する。つまり、①群と②群では社会的相互作用場面の様子に違いが見られるはずである。しかしながら、社会的相互作用場面の聞き取りでは両者に明確な違いが見出されたわけではなく、①群よりも②群に自己理解の問題が若干多く見られるとのことであった。鈴木・細川・野口(2014)は、②群よりも①群の方が自己理解の問題が多くなると指摘していた。この違いは、対象者の属性の違いによるものだと思われる。鈴木・細川・野口(2014)は通常学級に在籍する事例を対象としていたのに対して、本研究では知的障害特別支援学校に在籍する児童生徒を対象としていた。社会的相互作用は生活する環境や接する他者の違いなどの影響を受ける。つまり、他者/自己理解が同程度であっても対象者の属性の違いによって社会的相互作用場面の質的な違いが生じる可能性があるだろう。今後、通常学級に在籍するASD児を対象に同様の調査を行うことで、鈴木・細川・野口(2014)の示した社会的相互作用の質的変化の時期とその内容について検討していく必要がある。

なお、本研究は対象者8名という少人数のサンプルを対象としたため、今後、サンプル数を増やし、なおかつ学校種を考慮した検証が必要であろう。

## 文献

- 1) Baron-Cohen S., Leslie A.M. & Frith U.(1985) Does the autistic child have a “theory of mind”? *Cognition*, 21, 37-46.
- 2) Frith U.(2008) *AUTISM: A VERY SHORT INTRODUCTION*. Oxford University Press. 神尾陽子・華園力 訳(2012) ウタ・フリスの自閉症入門—その世界を理解するために. 中央法規.
- 3) 藤野博(2005) アニメーション版心の理論課題 ver. 2. DIK 教育出版.
- 4) 鈴木徹・平野幹雄・北洋輔・郷右近歩・野口和人・細川徹(2013) 高機能自閉症児における対人相互交渉の困難の要因に関する検討—心の理論課題を通過する事例の様相に着目して—. *特殊教育学研究*, 51, 105-113.
- 5) 鈴木徹・平野幹雄・野口和人・細川徹(2014) 高機能自閉症者における自己および他者の行為とその結果の因果関係の理解. *発達障害研究*, 36, 293-302.
- 6) 鈴木徹・細川徹・野口和人(2014) ある高機能自閉症者における対人的相互交渉と自己及び他者の行為の理解の関係. *宮城教育大学特別支援教育総合研究センター研究紀要*, 9, 57-71.
- 7) Wing L.(1996) *The autistic spectrum: A guide for parents and professionals*. London: Constable.

## - Editorial Board -

Editor-in-Chief	Atsushi TANAKA	University of the Ryukyus (Japan)
Executive Editor	Changwan HAN	University of the Ryukyus (Japan)

Aiko KOHARA  
University of the Ryukyus (Japan)

Aoko CHINA  
National Institute of Vocational Rehabilitation  
(Japan)

Eonji KIM  
Hanshin PlusCare Counselling Center (Korea)

Haejin KWON  
Ritsumeikan University (Japan)

Hideyuki OKUZUMI  
Tokyo Gakugei University (Japan)

Iwao KOBAYASHI  
Tokyo Gakugei University (Japan)

Kazuhito NOGUCHI  
Tohoku University (Japan)

Keita SUZUKI  
Kochi University (Japan)

Kenji WATANABE  
Kio University (Japan)

Kohei MORI  
Kanda-Higashi Clinic, MPS Center (Japan)

Liting CHEN  
Sophia School of Social Welfare (Japan)

Mika KATAOKA  
Kagoshima University (Japan)

Mikio HIRANO  
Tohoku Bunka Gakuen University (Japan)

Nagako KASHIKI  
Ehime University (Japan)

Shogo HIRATA  
Ibaraki Christian University (Japan)

Takahito MASUDA  
Hirosaki University (Japan)

Takashi NAKAMURA  
University of Teacher Education Fukuoka (Japan)

Takeshi YASHIMA  
Joetsu University of Education (Japan)

Tomio HOSOBUCHI  
Saitama University (Japan)

Toru HOSOKAWA  
Tohoku University (Japan)

Toshihiko KIKUCHI  
Mie University (Japan)

Yoshifumi IKEDA  
Joetsu University of Education (Japan)

## Editorial Staff

- Editorial Assistants	Mamiko OTA	University of the Ryukyus (Japan)
	Sakurako YONEMIZU	Asian Society of Human Services

## Journal of Inclusive Education

**VOL.1 August 2016**

© 2016 Asian Society of Human Services

Editor-in-Chief Atsushi TANAKA

Presidents Masahiro KOHZUKI • Sunwoo LEE

Publisher Asian Society of Human Services

Faculty of Education, University of the Ryukyus, 1 Senbaru, Nishihara-cho, Nakagami-gun, Okinawa, Japan  
FAX: +81-098-895-8420 E-mail: ashs201091@gmail.com

Production Asian Society of Human Services Press

Faculty of Education, University of the Ryukyus, 1 Senbaru, Nishihara-cho, Nakagami-gun, Okinawa, Japan  
FAX: +81-098-895-8420 E-mail: ashs201091@gmail.com



Journal of Inclusive Education  
VOL.1 August 2016  
*CONTENTS*

**ORIGINAL ARTICLES**

- The Measurement of Educational Assessment and Psychology, Physiology and Pathology for Children with Physical Disability, Health Impairment .....Haejin KWON, et al. 1
- Effects of Weekday Café Program in Special Needs School; Using by Special Needs Education Assessment Tool (SNEAT)..... Yoshimi CHINEN, et al. 11
- Redefinition and Construct of Diversity Education..... Changwan HAN, et al. 19
- Remembering the Past Autobiographical Memories and Imaging the Future in an Adult with Amnesic Syndrome; The Role of the Involuntary Memory .....Mikio HIRANO, et al. 28
- Study for Construction of the Individual Education Support Model: Based on IN-Child Record ..... Mamiko OTA, et al. 35
- The Influence of the Degree of Others/Self-understanding of the Social Interaction in Children with ASD ..... Toru SUZUKI, et al. 48
- Study on the Expectation of the Student Volunteers to Assist in the Leisure and Learning for Hospitalized Children ..... Sachiyo YAMASHITA, et al. 54
- The Verification of the Reliability of the SNEAT10; The Study of Screening Scale for Inclusive Needs Child .....Aiko KOHARA, et al. 67
- Social Psychological Study for Motivations of Supports for Developmental Disorders by Members in Workplaces .....Hiroataka KUWAKI, et al. 74
- Description of Disability in the Sub-textbook on Morals for Elementary School Students ..... Atsushi TANAKA, et al. 85
- The Discrepancy in Members' Participation Purpose in the Self-help Group of Person with Disabilities and His/Her Family that Continues for Many Years: A Case of the Group for Down's Syndrome ..... Takahito MASUDA, et al. 92
- Current Situations and Issues of the Education for Disability Understanding in Higher Education ..... Haejin KWON, et al. 104
- Performance Analysis of Diversity Management using the Balanced Scorecard: Case Study of Japanese Companies Employing Disabled and the Elderly .....Moonjung KIM 114

**REVIEW ARTICLES**

- Special Needs Education in School Education Act and Services and Supports for Persons with Disabilities Act ..... Ryotaro SAITO 124
- Executive Function and Brain Pathology in People with Intellectual and Developmental Disabilities ..... Yoshifumi IKEDA 132
- Research Trends on Educational Support and Psychological Characteristics of the Children with Physical Disabilities ..... Kohei MORI 140
- Special Needs Education in The Elementary School Government Guidelines for Teaching and Nursery Childcare Indicator..... Ryotaro SAITO 146
- Basic Study about Development of the Education for Disability Understanding Index; Based on the Inclusive Education.....Haena KIM, et al. 155
- Current Situation and Issues Related to Organization of the Education Curriculum and Devising of Educational Treatment of Children with Health Impairments ..... Kohei MORI 164

**PRACTICE REPORT**

- A Report of the Project of Establishment of Educational Security Center for the Long-term Hospitalized Children in Ehime Prefecture..... Kosuke NAKANO, et al. 170

Published by  
Asian Society of Human Services  
Okinawa, Japan